

2011年1月10日

各 位

放送大学  
学長 石 弘光

国際シンポジウム2011の開催について（ご案内）

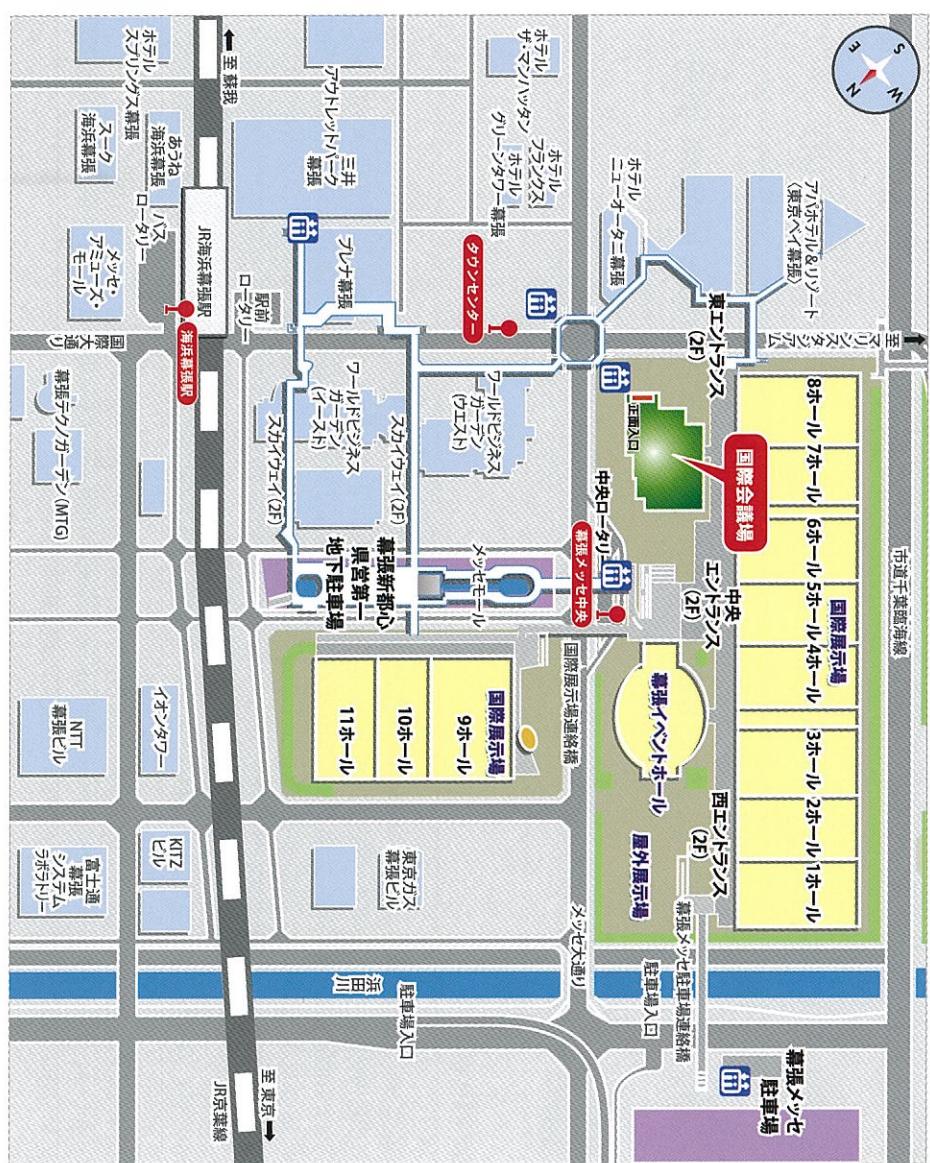
新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。  
本年も何卒ご高配のほど賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

さて、このたび、2011年2月23日（水）に幕張メッセ国際会議場において、「ICT活用・遠隔教育センター主催の「高等教育・生涯教育におけるデジタルリテラシー」と題した国際シンポジウムを開催いたします。詳細につきましては、同封のリーフレットをご参照ください。是非ともご参加くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。また、関係の皆様及びお知り合いの方々にもご案内くださいますよう、あわせてお願ひ申し上げます。

参加につきましては事前登録をお願いしておりますので、同封のリーフレットに記載のホームページアドレスからお申込みくださるよう、よろしくお願ひ申し上げます。

本件に関する問合せ先：

放送大学学園 総合戦略企画室 国際連携係  
〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11  
TEL : 043-298-3086, 3106, 3107  
E-mail : k-symposium@ouj.ac.jp



## 電車で御来場の方

東京都心から

- 東京駅 (JR京葉線 快速 29分) → JR 海浜幕張駅
- 八丁堀 : 東京メトロ日比谷線運転駅 (JR京葉線 快速 27分) → JR 海浜幕張駅
- 新木場 : 東京メトロ有楽町線運転駅 (JR京葉線 快速 21分) → JR 海浜幕張駅

横浜方面から

- 横浜 (JR東海道本線 26分) → 東京 (JR京葉線 快速 29分) → JR 海浜幕張駅
- 横浜 YCAT (高速バス 70分 特定期間のみ) → 幕張メッセ 中央ロータリー駅

羽田空港から

- 羽田空港ビル (東京モノレール 20分) → 天王洲アイル (りんかい線 10分)
- 新木場 (JR京葉線快速 21分) → 海浜幕張駅
- 羽田空港 (高速バス 40分) → 幕張メッセ周辺のホテル

成田空港から

- 成田空港 (京成本線特急 37分) → 京成津田沼 (京成千葉線 3分) → 京成幕張本郷駅 (京成バス 15分) → 幕張メッセ周辺のバス停
- 成田空港 (高速バス 30分) → 幕張メッセ周辺のホテル

千葉駅から

- 千葉 (千葉都市モノレール 4分) → 千葉みなと (JR京葉線 7分) → 海浜幕張駅
- 千葉 (JR外房線 6分) → 蘿我 (JR京葉線 12分) → 海浜幕張駅

埼玉方面から

- 南浦和 (JR武藏野線 45分) → 南船橋 (JR京葉線 7分) → 海浜幕張駅
- 南浦和 (JR武藏野線 45分) → 市川塙 (JR京葉線 14分) → 海浜幕張駅
- 南浦和 (JR武藏野線 60分) → 海浜幕張駅

## お申し込み方法・お問い合わせ

下記のURLの参加申し込みフォームにて必要事項を記入の上、お申し込みください。

<http://www.code.ouj.ac.jp/sympo-2011/>

お問い合わせ先

放送大学学園 総合戦略企画室 国際連携係

〒261-8586 千葉県千葉市美浜区若葉2-11 E-mail : k-symposium@ouj.ac.jp Tel : 043-298-3086, 3106, 3107 Fax : 043-298-3629

# 国際シンポジウム2011 高等教育・生涯教育に あけるデジタルリテラシー

2011年2月23日(水)  
幕張メッセ国際会議場会議室301号室



日 時 : 2011年2月23日 (水) 10:00~18:00  
懇親会 (会費制) 18:15~

会 場 : 幕張メッセ国際会議場会議室301号室  
(JR京葉線「海浜幕張駅」下車、徒歩5分)

使 用 言 語 : 英語 (英日同時通訳付き)

# 国際シンポジウム 高等教育・生涯教育におけるデジタルリテラシー 2011

# INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2011

## Digital Literacy: Opportunities and Challenges in Higher Education and Lifelong Learning

日 時 2011年2月23日(水) 10:00~18:00

場 所 幕張メッセ国際会議場会議室301号室 (JR京葉線「海浜幕張駅」下車、徒歩5分)

会 費 無料 言 語 英語(英日同時通訳付き)

Language English and Japanese (Japanese-English simultaneous translations will be provided)

### 概要

急速に発展しているデジタル技術は教育者及び学習者にさまざまなチャレンジをもたらしています。デジタルリテラシーの意味するところは多様ですが、デジタルリテラシーは新しい形のリテラシーであり、情報コミュニケーション技術(ICT)を活用する能力が深く関係している点では合意が得られています。高等教育や生涯教育において、デジタルリテラシーは、学習者中心主義や構成主義に基づく教育モデルを可能にするという点で、教育のパラダイム・シフトを促す原動力となります。日本は、世界からは大変技術的に発達した国であると見られていますが、教員や学生のデジタルリテラシーに関しては依然大きな課題となっています。デジタルリテラシーを考えるにあたって、我々はデジタルリテラシーによって何を達成したいのかを考えなければいけません。本シンポジウムでは、英国、カナダ、オーストラリア、香港、そして日本国内から有識者を招いて、それぞれの研究や実践から得た知識や考えを講演してもらい、また、学生及び教員のデジタルリテラシーを養成するにあたっての課題や方向性を議論します。

### プログラム

総合司会:青木久美子(放送大学 ICT活用・遠隔教育センター)

開会挨拶	10:00~10:10	放送大学長 石弘光
招待講演 1	10:10~11:10	アナログリテラシー Dr. Jon Dron (Associate Professor, School of Computing and Information Systems, Athabasca University)
招待講演 2	11:10~12:10	リテラシーとデジタル大学－批判的論考－ Dr. Chris Jones (Reader in the Institute of Educational Technology, The Open University) 休憩
招待講演 3	13:30~14:30	デジタルリテラシー－香港の教員と学生の21世紀における学習の展望－ Dr. Carmel McNaught (Director, Centre for Learning Enhancement And Research, The Chinese University of Hong Kong)
招待講演 4	14:30~15:30	オーストラリアのデジタルリテラシー－スキルと能力形成における図書館の役割－ Dr. Gillian Hallam (Adjunct Professor, Faculty of Science and Technology, Queens University of Technology) 休憩
招待講演 5	15:30~15:40	15:40~16:40 機能的デジタルリテラシーか批判的デジタルリテラシーか? 小柳 和喜雄(奈良教育大学 教職大学院 教授)
休憩	16:40~16:50	パネルディスカッション 16:50~17:50 何故デジタルリテラシーが今問われているのか?
閉会挨拶	17:50~18:00	放送大学 ICT活用・遠隔教育センター長 加藤浩
懇親会	18:15~	幕張メッセにて(会費制)

下記のURLの参加申し込みフォームにて必要事項を記入の上、お申し込みください。

<http://www.code.ouj.ac.jp/sympo-2011/>

お問い合わせ先

放送大学学園 総合戦略企画室 國際連携係

〒261-8586 千葉県千葉市美浜区若葉2-11 E-mail : k-symposium@ouj.ac.jp Tel : 043-298-3086, 3106, 3107 Fax : 043-298-3629

Contact Information

International Affairs Section, The Open University of Japan

2-11 Wakaba, Mihamachi, Chiba, Japan 261-8586 E-mail : k-symposium@ouj.ac.jp Tel : 043-298-3086, 3106, 3107 Fax : 043-298-3629

<http://www.code.ouj.ac.jp/sympo-2011/>

Online Registration

Date Wednesday, February 23, 2011 10:00~18:00

Venue Makuhari Messe, International Conference Room 301

Language English and Japanese (Japanese-English simultaneous translations will be provided)

### Overview

The rapid advancement of digital technologies poses many challenges to educators as well as students. Though the actual definitions of "digital literacy" may vary, it seemed to have been agreed that "digital literacy" is a new form of literacy in which the ability to use information and communication technologies (ICT) plays an important part. In higher education and life-long learning, digital literacy can facilitate a paradigm shift in approaches to teaching and learning moving towards student-centered and constructivist learning models. Even in Japan which is considered to be a technologically advanced society by the rest of the world, digital literacy is still an issue for teachers as well as students. In thinking of digital literacy, we have to consider what we want to achieve through digital literacy. In this symposium, we have invited experts from U.K., Canada, Australia, Hong Kong and Japan to present their views on this topic based on their research and actual practices. The symposium also aims to discuss the issues and directions the educators have to consider in developing digital literacy of students as well as ours.